

Q&A 官僚制度をどう考えるか?

Q メディアでは「官僚が悪い」「首相は官僚に操られている」といった報道がされています。日本共産党は、官僚制度に対してどのように考えていますか。

A 「官僚主導政治」の弊害をとりのぞき、国民本位の公務員制度と行政を實現するというなら、政官財の癒着を打ち破ることで。

公務員は「全体の奉仕者」です。しかし、官僚制度は、一部の特権官僚を中心として、国民に奉仕するのではなく、一部の政治家や財界・企業のための存在となっています。この癒着のものが、「天下一」「企業・団体献金」です。

霞が関から各企業・業界などに天下った官僚は、許認可や公共事業など様々な権益にかかわる各官庁の情報を天下り先に伝え、それを通して利益をえた大企業が天下り官僚を厚遇しています。同時に、大企業は政治家に莫大な政治献金を与えて、さらに国会で企業や自分たちの業界に有利な政策をすすめてもらうという関係になっています。

「官僚主導政治の打破」をいくら叫んでも、それだけでは政治も行政も国民の手に取り戻せません。日本の政治をゆがめる「財界中心の政治」「アメリカいなり政治」から抜け出すことが、大切になっていきます。

(八) オンダシ河原 (続々)

加藤織平・井出為吉が田代栄助に始めて会った二〇月三〇日夜、小前山中で幹部九人(田代栄助・加藤織平・井上伝蔵・新井周三郎・高岸善吉・坂本宗作・小柏常次郎・門平惣作・柏木太郎吉)による会合が開かれました。その際、栄助・伝蔵は近隣諸村から参集した困民に「延期」を再要請しました。が受け入れられなかった(田代栄助「尋問調査」、「裁判言渡書」では三二日)とあります。

翌三二日午前中、柴岡熊吉が小前の門平惣平宅に行くと、栄助・惣平・織平・周三郎・「信州の者一人」らが居ました(柴岡熊吉「訊問調査」)。



(写真は八坂神社に残る加藤織平の名)

皆野町の秩父事件⑬

栄助・惣平以外は石間村の加藤織平宅を「本拠」としていましたから、前夜帰村せず惣平宅に泊ったのでしよう。ここでは、蜂起困民軍の役割分担を話し合ったと見られます。

同日正午頃、田代栄助は小前を発つて石間村加藤織平宅に向向きました。午前中居合わせなかつた井上伝蔵・高岸善吉・坂本宗作らの幹部に「役割」の同意を求めためでした。そこで織平・善吉・宗作に会い「役割分担」の大筋で合意しましたが、栄助としては幹部活動家を一同に集めた会議を開催し最終的に「役割分担」を決定したいと考えていたようです。

これに対して、織平は「(あなたはよそ者だから分からないだろうが)石間村近隣の者はお互い皆熟知しているので、別段会議を招集する必要なし」と断られてしまいます(田代「訊問調査」)。

以上蜂起決定から棕神社蜂起にいたる経過を見てきましたが、「小前会議」開催は一〇月三〇日夜、大野福次郎が行こうとした「隊長分の評議」は三二

日夜の予定だったと推定するのが筆者の考えです。「隊長分の評議」は、三二日午後の加藤織平宅協議に先立って田代栄助サイドで決めており、遠方の風布組等へ会議招集の伝令をすでに飛ばしていたと考えられます。しかし、前述の理由から「隊長分の評議」は行われませんでした。

結果的に「役割分担」は一二月一日棕神社蜂起の日まで持ち越し、困民軍編成と約五〇名からなる役割分担が発表されたのは困民軍が棕神社に集結した午後七時頃のことでした。

秩父事件を歩こう

ハイキング

日本共産党皆野町後援会は十一月三日、秩父事件の現場を歩くハイキングを企画し、好天の下30名に近い参加を得て好評でした。



幹事の皆さんご苦労様でした

新米議員のひとりごと

常山 知子

11月11日午後4時、私は国会議事堂前の大勢の人・人・人のなかにいました。みんな同じ思いで「原発いらぬ」「子どもを守れ」と声をあげていました。

降りしきる雨の中、雨なんかにも負けるものかと、若者も年寄りもゾロゾロと国会前に集まってきました。

「あきらめないでー。平和で豊かな日本にするまで。それをみとどけるまで」と落合恵子さんが訴えます。「この思いを今度の選挙で示しましょう」

官邸前行動(毎週金曜日、首相官邸前で原発を訴える行動)が始まって、もう30回以上続いています。

一度参加して、私も意思表示をしたかったです。そしてこの日「11・11 原発100万人大占拠」に参加しました。

原発で汚された福島を思い、子どもたちのために、きれいな日本を残したい。今、そんな思いでいっぱいです。